

# 介護職員初任者研修と喀痰吸引等研修

## 受講生 15 人全員が合格

第8回介護職員初任者研修と第3回喀痰吸引等研修の修了式が12月3日、城西病院で行われました。介護職員初任者研修には、達生堂グループ外からの2人を含めて12人が受講。喀痰吸引等研修には3人が受講し、全員が無事合格して、修了式に出席しました。

初任者研修は、介護の基本的な知識と技術を身につけるための研修で、今年6月に開講、毎週土曜日に人間の尊厳や自立に向けた介護、安全衛生、介護と医療の連携、コミュニケーション、認知症、入浴と清潔保持、ターミナルケアなど幅広い領域にわたり、130時間の講義と実習を行ってきました。

喀痰吸引等研修は、介護福祉士などの資格を持つ者が喀痰吸引を行うために必要な研修で、保健医療制度とチーム医療、安全な療養生活、健康状態の把握、経管栄養概論など約50時間の講義に加え5回以上の演習、20回以上の実地研修を行い、資格を取得。資格取得後は、口腔内・鼻腔内の喀痰吸引、気管切開部の喀痰吸引、胃ろう・腸ろうの経管栄養、鼻からの経管栄養などを行うことができます。

修了式では、城西病院の白石裕比湖理事長が「修了式は一つの節目でありスタート。基礎から学んだ知識と経験を生かして社会に貢献してほしい」、倉持裕子校長は「介護の現場で体と心に寄り添ってほしい。壁にぶつかったときには、この研修を思い出して初心に帰って乗り切してほしい」と祝福を受け、受講生は城西病院の白石裕比湖理事長から修了証書を受け取りました。最後にグループ外から初任者研修を受講した廣瀬和宏さんは「在宅でも実践できる介護をわかりやすく教えていただいた。緊張した入浴介助も家庭のお風呂で行っているようなすがすがしさを感じ、常に優しい気持ちで行う介護の大切さを学びました」と謝辞を述べました。

2022年12月3日

